

1 統計調査員はつらいよ！

・ 映画のフーテンの寅さんではありませんが、月刊「文芸春秋」12月号に元産経新聞東京本社社会部長の福井惇氏が「国勢調査員はつらいよ」と題した体験談を投稿しています。話は平成17年7月、突然届いた調査員就任依頼の手紙から始まります。新聞記者歴34年の著者は色々考えますが、結局「最後のご奉公」と思い国勢調査の調査員になることを決意します。

・ 体験談は、その後2カ月間の調査員としての著者の奮闘記です。老人ばかりの各世帯、オートロックに暗証番号、表札のないアパート、チラシで溢れる郵便受け、ニートとの遭遇、調査拒否と罰則論争、たった一人のローラー作戦、張り込み、聞き込み、夜駆け・朝駆け、もう何でもあり状態です。体験談は国勢調査が抱える課題を訴え、独り「お疲れさん」と苦笑して終わっています。国勢調査に限らず「統計調査員はつらいよ」。寅さん、何か良い工夫はないですか？

2 調査員に聞きました！

○ 統計調査員の悩みは？

・ 県経済統計室は11月28日(月)、産経会館(静岡市)で「個人企業経済調査(総務省統計局)」の統計調査員7名の皆さんと、調査の円滑な実施や情報交換を目的として、調査員合同研修会を開催しました。研修会では、調査業務を確認するとともに、統計局の方々や県担当職員も交え日頃の調査活動の悩みなどを自由かつ率直に語っていただきました。



・ 「仕事を止めるもんで調査はいいだら」---皆さんの共通の悩みは、厳しい経営状況が続く事業所に御協力を頂くことの難しさでした。しかし、調査対象の方には申告義務があること、統計調査員にも守秘義務があること、さらには調査結果が行政施策に必要不可欠であること等を丁寧に説明することで、何とか御協力頂いているとのことでした。統計調査員も事業所の方も、やはり人間と人間。真摯な対話の積み重ねが基本であることを再認識させられた研修会でした。

○ 今、全国の注目の「SOHOしずおか」を見学!!!

・ 会議の後、全国的に注目されている起業支援施設「SOHOしずおか」(静岡市内)を訪問し、注目の仕掛人「小出宗昭さん」から熱いお話を伺うことができました。施設では、起業者の皆さんが施設内の小ブース(約3坪)に入居しており「規模の小ささに関係なくアイデアとネットワークで活躍(世界的なビジネスも誕生)している」との説明に、参加者全員は真剣に聞き入りました。このように今回は、会議室の会議だけでなく現場の新しい空気にも触れることができ、得るところの大きかった1日となりました。「SOHOしずおか」の概要は



ホームページで見ることができます。(HPアドレス<http://soho-shizuoka.gr.jp/shizuoka/>)